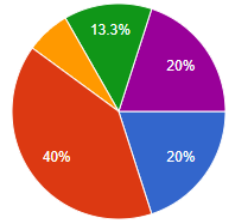


児童アンケート結果（上段…昨年度１１月 下段…今年度７月）黄色箇所は評価向上

① ペンキようが できるようになり ペンキようすることがたのしい。

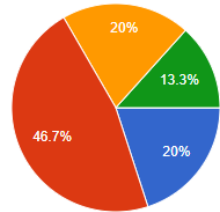
13件の回答



● そうおもう
● だいたいそうおもう
● どちらでもない
● あまりおもしろくない
● ぜんぜんおもしろくない

② じゅぎょうちゅうに せんせいがいないとき... じぶんからすすんで ペンキようをしている。

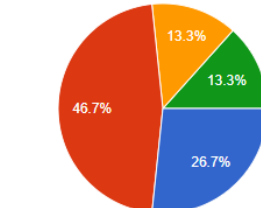
13件の回答



● そうおもう
● だいたいそうおもう
● どちらでもない
● あまりおもしろくない
● ぜんぜんおもしろくない

③ おもしろいことや できないことがあっても あきらめないで がんばってペンキようをしている。

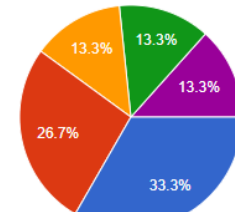
13件の回答



● そうおもう
● だいたいそうおもう
● どちらでもない
● あまりおもしろくない
● ぜんぜんおもしろくない

④ がっこうは たのしいなとおもう。

13件の回答



● そうおもう
● だいたいそうおもう
● どちらでもない
● あまりおもしろくない
● ぜんぜんおもしろくない

肯定的回答率が約17%向上しました。子ども個々に寄り添い、学習意欲を促す指導が成果を上げています。今後も学校全体で授業改善を推進してまいります。

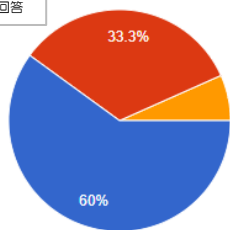
昨年度に続き、肯定的回答率が上がっています。複式指導における授業スタイルが整備されたことにより、子ども達が自主的に学習を進める姿勢が向上しているのが表れています。

肯定的回答率が18%以上向上し、否定的回答率がゼロとなりました。①②の回答結果とも合わせ、学校全体で授業研究を推進してきた成果です。

肯定的回答率が9割以上となりほとんどの子が学校で楽しく過ごすことができます。今後も自分たちで学校を楽しめる意識を育てていきます。

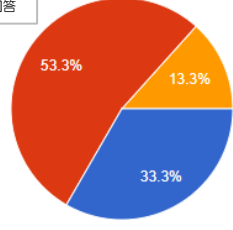
⑤ せんせいや ともだちと あそんだり おはなししたりしている。 ⑥ がっこうやがっきゅう ともだちのために じぶんができることは している。

13件の回答



「そう思う」の回答結果が100%となりました。子どもも、職員もコミュニケーションがよく取れているのは本校の長所です。

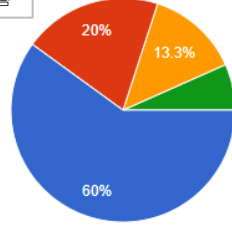
13件の回答



今年度の肯定的回答率は100%。今後も、学級だけではなく、全校の集団活動を通して、相手意識をもち積極的に行動できるよう働きかけていきます。

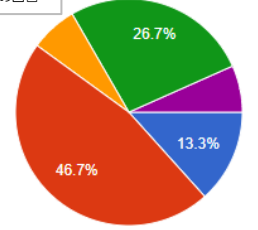
⑦ うんどうがすきで たくさんからだを うごかしている。 ⑧ はやね はやおきができています。

13件の回答



肯定的回答率が9割以上となり、否定的回答率が0となりました。今後も子どもが意欲的に運動する活動を増やしていきます。

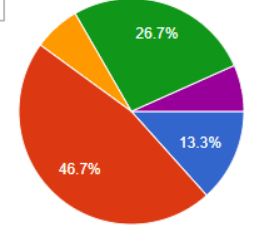
13件の回答



肯定的回答率が2割以上低下し、否定的回答率が同程度の割合で増えています。本校の課題として、ご家庭と連携しながら、健康的な生活習慣の呼びかけを続けていきます。

⑨ すききらいを しないで しっかりたべている。

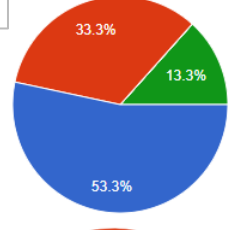
13件の回答



肯定的回答率はあまり変化がありませんが、「全然思わない」という回答が増えています。今後も、給食などで健康的な食習慣への意識づけを働きかけていく必要があります。

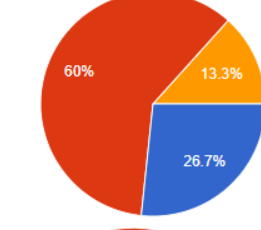
⑩ じぶんからすすんで ほんを よんでいる。 ⑪ しっぱいや まちがいを こわがらずに ちようせんしている。 ⑫ じぶんから げんきにあいさつをしている。

13件の回答



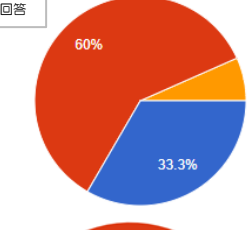
肯定的回答率はあまり変化がありませんが、「全然思わない」の回答が増えています。読書への関心を高める取組が重要となります。

13件の回答



昨年度と同様に肯定的回答率が8割を超えており、チャレンジ精神を育てる指導の成果が表れています。

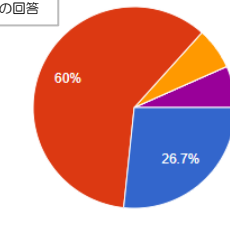
13件の回答



昨年度と同様に肯定的回答率が9割を超えていますが、個別に児童に尋ねると「自分から」という部分では課題も残ります。今後も自主的に挨拶する大切さの指導を続けてまいります。

⑬ ともだちのいいところを みつけている。

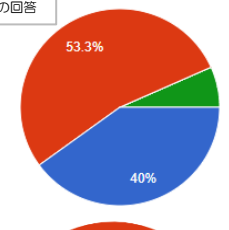
13件の回答



肯定的回答率が9割を超え、否定的回答率も減っています。今後も自分と相手の違いを肯定的に受け止める子どもを育ててまいります。

⑭ じぶんには わるいところだけではなく いいところも あるとおもう。

13件の回答



否定的回答率が0となりましたが、肯定的回答率が若干低下していることが心配です。今後も、全ての子が自他に否定感情を持たないよう、自己有用感を高める教育活動を推進していかなくてはなりません。

児童アンケート結果（上段…昨年度１１月　下段…今年度７月）黄色箇所は評価向上